



中国がわかるシリーズ 41 モンゴル軍の第二次大西征 その1

ライフネット生命保険株式会社
創業者、出口 治明氏

1246年、最有力者バトゥ欠席のまま、ようやくクリルタイが開かれ、ドレゲネの推す実子グユクが3代カン位に就きました。この年、教皇の使節、フランシスコ修道会のプラノ・カルピニが、カラコルムで、グユクに拝謁しています。グユクは、(自らの即位に反対した)バトゥに向け、征西軍を送り出し、自らも出立しました。バトゥも、征東軍の先頭に立ちました。

東西のモンゴル軍激突直前の1248年、グユクが陣没しました(バトゥの刺客による暗殺の可能性が高いと考えられています)。トルイの長子、モンケが、バトゥの大軍団に守られて、1251年のクリルタイで、4代カアンに就きました。なお、1247年、[南]宋では、秦九韶の「数書9章」が完成しました。これは、高次方程式の数値解法を示したもので、ヨーロッパより、600年早いと云われています。

果敢な性格のモンケは、即位に反対したウゲデイー門を肅清し(ウゲデイ・ウルスは事実上消滅しました)、ウゲデイに与したチャガタイ・ウルスの領土を削ぎました。モンケは、中央アジアからロシア方面はバトゥに一任し、弟のクビライとフレグを、中国と西アジア(地中海)に派遣することを決めました。なお、一際優れた3兄弟、モンケ、クビライ、フレグの生母、ソルコクタニ・ベキ(トルイ未亡人)は、キリスト教徒(ネストリウス派)でした。